

2 エピソード

赤ちゃんの感情の調子に波長を合わせてみましょう！

① エピソードのような、「まね」の場合は、赤ちゃんの動作や言葉をそのまま、まねていました。ここでは、行動そのものをまねるというよりも、赤ちゃんとは異なる表現で、**赤ちゃんの感情の調子（状態）に波長を合わせてみます**。たとえば、楽しそうにガラガラを振り回す**赤ちゃんの腕の動きに合わせてうなずいたり、赤ちゃんの喜びの表情に合わせて、声の表情を変えたりしてみます**。つぎに例を挙げてみますので、やってみましょう！（身近にいる人でお互いに役割をかえてやってみてもよいでしょう。）

例1 赤ちゃんが毛布の下に隠れていたぬいぐるみを見つけたとします。喜びでいっぱいになって、赤ちゃんの顔がみるみるほころんできます。そうした喜びに波長を合わせ、「うーい」と、それらを声の調子や動作で表現してみましょう。

例2 赤ちゃんがやわらかいぬいぐるみに手をたたきつけています。最初は、ちょっと怒ったように見えますが、たたいているうちに、だんだん楽しくなって、一定のリズムを刻みはじめました。ママやパパもその喜びのリズムに乗って、体を振りながら、「パーン、パーン、パンパンパン」と声を出してみましょう。

例3 赤ちゃんがおもちゃを見つけ、体を傾けて、手を伸ばしています。もう少しで届きそうですが、それでもまだ手が届きません。そのときの赤ちゃんの気持ちに波長を合わせて、「うー、うー」と声を出してみましょう。

1 赤ちゃん（相手）にどんな変化がありましたか？ ワークシートに書き込んでみましょう。

2 そのときあなたはどんな気持ちになりましたか？ ワークシートに書き込んでみましょう。



3 どんな気持ちになったかグループで話し合ってみましょう。

メモ：

パパ、ママのためのワンポイント知識

赤ちゃんは自分と同じような動きをする他者を好み、そうした他者に強い関心を持ちます。

赤ちゃんの言葉や動作を大人が真似ることを「逆模倣」と言います。他者に関心を示さない発達障害児においても逆模倣を行うと、他者への関心が増大するという報告もあります。それに、何より、自分の行動が大好きな人たちに影響を与えているということ、赤ちゃんは学ぶことができます。

これは、とても楽しい出来事であると同時に、これから赤ちゃんが成長していく上でとても大きな財産となります。